

初対面場面における中日母語話者の話題選択の対照研究

唐 瑩

キーワード：初対面場面、話題内容、話題選択、会話開始方法

要旨

初対面場面の会話は人間関係の出発点であり、コミュニケーションの中で重要な役割を持つ。異文化の話者が接触する場合、自分の母語の習慣に影響され、相手に違和感を抱かせる可能性がある。本稿では、中日大学生の会話データを使い、中日母語話者同士の会話における話題選択の傾向と会話の展開の仕方について考察した。両グループともに自分の所属などの個人情報を開示し、心的距離を接近させる傾向が見られたが、一方で、次のような相違も見られた。(1) 中国語グループは自分の性格や奨学金などプライベートな話題の開示が見られ、話者以外の人物のことにもよく言及する。日本語グループはお互いの領域に配慮しながら会話を進める。(2) 中国語グループは相手の個人情報について直接質問するという形で会話を切り出すが、日本語グループは定型的表現で会話を切り出すことが多い。

1. はじめに

初対面会話は人間関係形成の出発点であり、コミュニケーション活動において重要な役割を持つ。初対面会話の話の内容や会話スタイルなどは文化や社会背景に影響されているため、異文化の人同士、特に初対面の人と話す場合は、相互のコミュニケーションの特徴を理解することが重要である。

例えば、筆者が日本に留学したばかりのころ、留学生と日本人の交流の場を作らることを趣旨としたサークルに入ったが、初対面の日本人学生と話して、友達になりたいという時、何を話せばいいかが分からないという経験があった。話を始めても、日本人との会話を続けるのが難しく感じ、物足りない感じで終わってしまう場合が多かった。初対面場面では、どのような話題を選択するのか、そしてどのように会話を展開するのが文化によって異なる可能性がある。

本稿では、日本人の大学生・大学院生同士、および中国人大学生・大学院生同士の初対面会話のデータを使い、中国語グループと日本語グループの話題選択の傾向と会話の展開の仕方について考察する。

2. 先行研究

初対面会話には様々なタイプがある。直接会話をするのは初めてでも会話相手に関する情報がある程度すでに知っている場合もあれば、相手の情報をまったく知らないで、その場で初めて話す場合もある。また、会話参加者の関係や会話目的が決まっている場合もあれば、純粹に話すだけのこともある。これまで扱われてきたのは、主に会話相手に関する情報を持たず、社交的な場面で一定時間、自由に会話する場面である。このような場面においては、円滑な会話を遂行するための前提として、相互に関する情報交換が活発に行われる（三牧 2013）。

その情報交換における「話題選択」と「話題展開」に関する先行研究には次のようなものがある。

三牧（1999）は、日本人大学生の初対面会話の話題内容を「大学生活」「所属」「居住」「共通点」「出身」「専門」「進路」「受験」の8カテゴリーに分け、文化を共有する集団には一般的あるいは典型的な知識の集合であるスキーマが共有されると述べている。話題選択に関しても「初対面会話における話題選択スキーマ」が共有されていると指摘している。

謝（2005）は中日女子大生の初対面会話の最初の5分間に出てくる話題について分析している。中日両グループとも、最初の5分間には、会話参加者の名前、所属、研究テーマ、住まいなどに関する「身上的情報」の話題がそれ以外の話題を上回って取り上げられる傾向が見られたとしている。しかし、中日の身上的情報の具体的な相違については詳細な分析を行っていない。

張（2006）は会話の開始から5分間の内容を考察している。中国語場面では、会話を開始してから5分間の間に、すべての身上的情報が現れるが、日本語場面の「自己紹介」では氏名の交換のみであったこと、そして、ほかの情報は、会話の展開につれて自ら提供するか、相手の質問によって引き出されるかであったことが報告されている。また、日本人女子大生同士の初対面会話は、まず「挨拶」などの定型表現で始められ、次いで、自分自身の身上的情報を述べて相手にも情報提供を暗に求めるといったやりとりで会話が推移していくという特徴があることも指摘されている。他方、台湾人女子大生は定型表現の使用は全く見られず、直ちに相手に質問して、相手から身上的情報を獲得することにより、会話が展開されるという特徴があるということが報告されている。

張（2007）は20分ごとの話題タイプの種類を考察し、両グループともに「相手に関するトピック」、「百科事典的トピック」、「自己に関するトピック」と「その場に関するトピック」、「第三者に関するトピック」という順で現れたとしている。しかし、張（2006, 2007）の研究では5分後の具体的な話題内容に触れられていない。

蔡（2011）は日中台の社会人を対象に、母語場面ごとの話題選択の傾向を比較し、日中台の社会人の初対面会話において、個人情報及び仕事関係に関する話題が多く選択されていることを報告している。そして、日本語母語話者は名前、居住地以外の個人情報

報の開示が少なく、仕事内容や専門、趣味に関する話題から派生した話題が多いこと、中国語母語話者は話題選択の範囲が広く多様であることを指摘している。

話題選択と話題展開に関するこれまでの中日対照研究は、会話開始から 5 分間の内容に注目したものが多い。この 5 分間の内容は個人情報の開示に集中していることが分かっているが、その後の話題展開の内容はまだ分かっていない。そこで、本稿では、中日両グループ各 20 分の会話について考察を行った。

3. データの収集と分析方法

3.1 データの収集方法

本研究では中日母語話者同士の初対面会話のデータを収集し、文字化した。協力者は全員 20 代の大学生もしくは大学院生である。協力者の内訳は次のとおりである。

表 1 協力者の内訳

協力者	調査場所	人数
中国語母語話者	常熟理工学院（中国江蘇省）	40 人
日本語母語話者	麗澤大学（日本）	36 人

初対面の同性同士二人をペアにし、中国語グループ 20 ペア、日本語グループ 18 ペアの会話を録音した。録音の際には、全調査者に許可を得て録音した。調査の目的は事前に説明せず、録音開始の前に「テーマは自由で、なるべく相手と友達になるように 20 分の会話をしてください」という指示を出し、筆者はその場を離れた。調査終了後、フォローアップ・インタビューのアンケートを全員に記入してもらった。

日本語グループのデータは 2011 年 10 月から 2012 年 6 月にかけて、麗澤大学の大学生、大学院生を対象者として収集した。実験の場所は大学院の教室であった。中国語グループのデータは 2012 年 2 月から 3 月にかけて、中国江蘇省の常熟理工学院で、現地募集の方法で協力者を集め、図書館または教室で録音を行った。

すべての録音データは文字化して、日本語グループの文字化データは、日本語母語話者にチェックしてもらった。中国語グループのデータは、1 組が録音ミスのため、文字化できなかった。最終的に日本語グループ 18 組、中国語グループ 19 組のデータを分析対象とした。

3.2 「話題」の区分について

「話題」は「テーマ」あるいは「トピック」と呼ばれている。一般に会話の話題は「(会話の問題とされている時点において) 話されていること」と考えられ、会話参加者たちによって共有され展開される (山本 2003)。三牧 (1999) は「話題」を会話の中で導入、展開された内容に結束性を有する事柄の集合体を認定し、その発話の集合体に共通

した概念であると定義している。話題には階層性があり、複数の関連するトピックがより大きなトピックとしてのまとまりを形成する（村上・熊取谷 1995）。

本稿では、三牧（1999）の話題の定義に従い、会話内容を話題ごとに区分した。前述のように、話題は内容的に階層性があり、複数の関連話題がさらに大きい話題を構成することがある。そのため、一つの話題が内容的にさらに展開される場合は、上位にある話題を「大話題」、下位にある話題を「小話題」と名付けた。その後、「大話題」の内容をより大まかな話題カテゴリーに分類した。

例として中国人女子大生 13 番の話題分類を挙げる。

表 2 話題分類の例

大話題	小話題
名前	名前、名前の書き方、名前の由来
趣味	—
ダンス	ダンスクラス、ダンスの勉強
音楽	好きな歌、カラオケ
日常事	—
ドラマ	—
漫画	—
買い物	買い物の場所、買い物の経験

この例では、合計 8 つの「大話題」が選択されている。その中で、「名前」「ダンス」「音楽」「買い物」の 4 つの「大話題」がいくつかの「小話題」から構成されている。

4. 結果と分析

上述した方法で会話を話題ごとに分け、話題数の出現回数と種類について分析した。結果は次の通りである。

4.1 話題数

中国語母語話者 19 組と日本語母語話者 18 組のデータ、合計 37 組の会話を文字化し、話題を分類した結果、次の表 3 のような結果となった。

表 3 両グループの話題数

	話題の出現回数 (延べ)	1 組あたりの話題出現回数 (延べ) の平均	話題の種類 (異なり)	1 組あたりの話題の種類 (異なり) の平均
中国語グループ	580	31	75	22
日本語グループ	368	20	60	15

中国語母語話者は合計 580、日本語母語話者は合計 368 の話題、計 948 の話題が出現した。

1 組あたりの平均話題出現回数は、中国語グループ 31、日本語グループ 20 であった。また、両グループの話題の種類は、異なりで 85 種類の大話題に分類できる。1 組あたりの話題の種類は平均は、中国語グループ 22 であり、日本語グループ 15 であった。ペアごとの話題出現回数も話題の種類も中国語グループの方が多い。

両グループの大話題と小話題の話題の出現回数は次の図 1 の通りである。

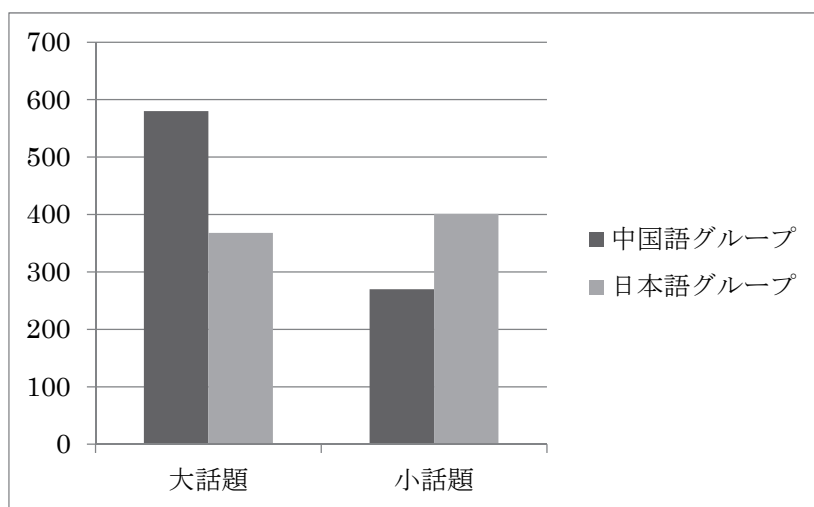


図 1 大話題と小話題の関係

中国語グループは小話題の延べ出現回数が 270、大話題数の延べ出現回数が 580 である。日本語グループは小話題の延べ出現回数が 401、大話題の延べ出現回数が 368 である。一つの大話題に含まれる小話題の数の平均は中国語グループ 1、日本語グループ 2 である。日本語グループでは、大話題数の出現回数は少ないが、一つの大話題に含まれる小話題の出現回数が多い。それに対し、中国語グループでは、開示された大話題の出現回数が多いが、一つの大話題に含まれる小話題の出現回数が少ない。ここから、次のことが考えられる。日本語母語話者は一つの話題についてより具体的に、異なる側面を話してから、次の話題に移行する。その一方、中国語グループは日本語グループより導入された話題が多いが、一つの話題に含まれる下位話題がより少なく、すぐ次の話題に移行するほうが多い。

4.2 話題内容

85 種類の大話題の中で、中国語グループは 75 種類、日本語グループは 60 種類の話題を選択した。大話題を【個人情報】、【他者】、【学校生活】、【すききらい】、【進路】、【社会】、【そのほか】という 7 つのカテゴリーに分けると、次の表 4 のように整理でき

る。948 の話題のうち、897 (94.6%) の話題は【そのほか】以外の6カテゴリーにまとめられ、残りの51 (5.4%) の話題は【そのほか】のカテゴリーに含まれる。

表4 大話題のカテゴリーと種類

	中国語グループ		日本語グループ			中国語グループ		日本語グループ	
個人情報	名前	0.8	1	すききらい	ゲーム	0.3	0.1		
	年齢	0.1	0.3		食事	0.2	0.1		
	生年月日	0.1	0.1		買い物	0.5	0.0		
	老家 ^(注2)	0.9	0.3		遊び	0.4	0.1		
	出身校	0.1	0.4		スポーツ	0.5	0.4		
	自我	0.4	0.0		習い事	0.4	0.2		
	学歴	0.2	0.3		旅行	0.0	0.2		
	住まい	0.3	0.3		アイドル	0.2	0.0		
	学科	0.2	0.2		漫画	0.1	0.0		
	専攻	0.9	0.9		映画	0.2	0.2		
	所属	0.5	0.2		ダンス	0.1	0.0		
	給料	0.2	0.0		音楽	0.1	0.1		
	自宅	0.1	0.6		パソコン	0.1	0.0		
	職位	0.2	0.0		趣味	0.5	0.2		
	学年	0.7	0.8		お酒	0.0	0.1		
	恋	0.6	0.1						
他者	同級生	0.5	0.2	進路	大学院入試	0.9	0.2		
	家族	0.4	0.3		大学入試・志望	0.4	0.4		
	友人	0.8	0.5		将来の志望	0.8	0.4		
	先生	0.4	0.4		就職	0.9	0.3		
	先輩	0.3	0.0		軍隊	0.1	0.1		
	人間関係	0.9	0.8		公務員	0.2	0.0		
学校生活	帰省	0.5	0.2	社会	出来事	0.3	0.1		
	通学	0.5	0.6		うわさ	0.1	0.0		
	イベント	0.4	0.3		地域情報	0.8	0.4		
	サークル	0.3	0.9		8090後 [*]	0.1	0.0		
	日常事	0.8	0.5		社会マナー	0.1	0.0		
	授業	0.9	0.4		社会知識	0.0	0.2		
	勉強	0.9	0.8	その他	連絡手段	0.2	0.0		
	試験	0.5	0.1		誘い	0.1	0.0		
	バイト	0.6	0.6		当日のこと	0.2	0.1		
	資格試験	0.9	0.3		挨拶	0.4	0.9		
	奨学金	0.1	0.0		約束	0.1	0.0		
	入党	0.1	0.0		依頼	0.1	0.0		
	方言	0.1	0.0		場面による発話	0.3	0.4		
	寮生活	0.7	0.2		生活の雑談	0.0	0.1		
	大学関係	0.6	0.4		外見	0.0	0.1		
	クラス	0.6	0.1						
	実習	0.1	0.1	話題合計	580	368			
	ネットの使用	0.4	0.0	平均話題数	31	20			
	休暇	0.2	0.0	異なる話題数	422	268			
	担当	0.1	0.0						
	運転	0.1	0.1						
	高校生活	0.5	0.2						
	ゼミ	0.0	0.3						
卒論	0.0	0.3							
留学	0.0	0.6							
ボランティア	0.0	0.2							

(※「8090後」は80年代・90年代生まれた子のこと。)

次節以降では、両グループに共通して選択率が高い話題と選択率に顕著な違いがある話題項目について分析する。

4.2.1 共通して選択率が高い話題項目

表4を見ると、両グループともに選択率が高い話題は、【個人情報】における「名前」「学年」「専攻」などの所属、そして「老家」（中国語で一族の出身地のこと）「自宅」などの地縁に関する話題に集中している。

【個人情報】における「名前」「学年」「専攻」は、両グループともに話題選択率が50%以上になった。自分の所属に関する情報は会話の初めに出現することが多かった。

以下、日本語グループと中国語グループの会話例を挙げる。

会話例1（日本語グループ）

- 1 JM2001 経済研究科、ええと、経営学専攻の〇〇と申します。よろしくお願ひします。
- 2 JM2002 よろしくお願ひします。ええと、言語教育研究科の英語教育専攻の●●です。
- 3 JM2001 よろしくお願ひします。え、ちなみにお年は？（年齢）

会話例2（中国語グループ）

- 1 CM0901 我机电工程学院的。你呢？（学科）
僕は電子機械学部に所属しています。あなたは？
- 2 CM0902 我外国语学院的。
僕は外国語学部に所属しています。
- 3 CM0901 外国語什么专业啊？
外国語学部の何語ですか？
- 4 CM0902 日语啊。（専攻）
日本語です。
- 5 CM0901 日语啊？
日本語？
- 6 CM0902 你什么专业的？
あなたの専攻は何ですか？
- 7 CM0901 汽修服务
車の修理とアフターサービスです。
- 8 CM0902 汽修服务？
車の修理とアフターサービスですか？
- 9 CM0901 嗯
うん。
- 10 CM0902 那你的专业还蛮吃香的

あなたの専攻は人気あるでしょうね。

11CM0901 我们这个比较广吧，就是像汽车销售啊，还有什么汽车服务啊，都做的。

僕の専攻は範囲が広くて、販売からサービスなど、車関係のことは、何でもある。

12CM0902 服务啊？

サービスですか？

13CM0901 嗯

うん。

14CM0902 你大一的啊？ (学年)

あなたは一年生ですか？

15CM0901 嗯，我大一。

はい、一年生です。

16CM0902 你叫什么名字啊？ (名前)

名前は？

17CM0901 (名前)

会話例 1、2 はいずれも会話の最初に出現した例である。日本語グループと中国語グループともに、会話のはじめに、自分の基本的な所属情報を開示している。日本語グループは開示した個人情報から、「え、ちなみにお年は？」という質問で話題を展開している。ただし、両グループの開示方式を比べてみると、日本語グループは会話例 1 のように、会話の最初から、自己紹介の形式で自分の所属や名前を開示しているが、中国語グループは会話例 2 のように、相手の質問に答える形で個人情報を開示している。日本語グループのような自己紹介の形式で個人情報を開示するケースは 3 例しかなかった。

会話の最初に基本的な個人情報を開示する理由として、次の 2 点が考えられる。①初対面場面では、相手に関する情報が不足しているため、より円滑にコミュニケーションを図るために、会話者間の情報のギャップを埋める（西田 1998 の言う「不確実減少理論」）。②三牧（2013）が述べているように、初対面会話の特徴の一つは、円滑な会話を遂行するための前提として、相互に関する情報交換が活発に行われることである。「名前」「学年」「専攻」など自己開示を含む情報を交換することにより、心的距離を接近させるのに役立つ。

次に、地縁に関わる話題項目を見ると、中国語グループは 90%が「老家」を選択しているが、日本語グループは 60%が「自宅」を選択している。両グループともに個人背景の開示に関心を持っていることが分かった。中国語グループの大学生は遠方の都市から調査所在地の大学に通っている人が多い。地縁関係を重視すると言われる中国人にとって、初対面会話における双方の出身地の情報は、心理的距離を縮めるのに有効な手段と言える。その一方で、日本語グループの学生は毎日自宅から電車で大学に通ってい

る人が多いため、「自宅」について触れることにより、通学手段などの共通の話題を探しやすいつと考てていると見られる。

地縁に関する会話例を挙げる。

会話例 3 (日本語グループ)

- 1 JM1302 え、住まいはどこの辺ですか？
- 2 JM1301 八柱ってわかりますか？
- 3 JM1302 八柱？遠いですか？
- 4 JM1301 いや、近いです。南柏から、電車 1 本で新松戸に行って、新松戸から乗り換えて、1 本です。
- 5 JM1302 結構近いですか？
- 6 JM1301 近い。チャリで 30 分ぐらいかな
- 7 JM1302 へーえ、チャリで来ているんですか？
- 8 JM1301 いや、チャリはなんか体力的に、なんか電車のほうが時間がかかる。
- 9 JM1302 あ、そうですね。一回乗り換えてくるんですね。

会話例 3 では、自分の居住地の情報を開示した後、通学の情報を開示し、話題を展開している。

会話例 4 (中国語グループ)

- 1 CM0601 那个，就是哪个地方的人？ (会話者の出身地)
あの、どこの出身ですか？
- 2 CM0602 盐城人。
盐城です。
- 3 CM0601 我从湖南那边过来的。
僕は湖南から来ました。
- 4 CM0602 你是湖南那边的啊？很远的。你湖南哪个地方的？
湖南ですか？遠いんですね。湖南のどの辺ですか？
- 5 CM0601 嗯，衡阳。
衡阳です。
- 6 CM0602 是大城市吧？
大きな都会ですよ？
- 7 CM0601 对，衡阳。
そうですね。
- 8 CM0602 你肯定知道盐城的吧？
盐城は知っているでしょう？

9 CM0601 嗯，对对。然后是什么东台吧？

はい。そして東台などもありますよね？

10CM0602 对，东台也是盐城下面的一个小城市。

そうです。東台は盐城に所属している小さな都市です。

11CM0601 我们班有一些盐城来的人的。 (クラスメートの出身地)

うちのクラスには盐城からの人もいます。

12CM0602 其实我们这个学校盐城人很多的，我们班就有十几个。

実はこの大学に盐城からの人がとても多いです。うちのクラスに何十人もいます。

13CM0601 我们班也有很多。

うちのクラスにもたくさんいます。

会話例4では、出身地の開示から出身地の状況、そして出身地の状況からクラスメート、他人に関する情報まで展開している。

4.2.2 選択率が異なる話題項目

各カテゴリーの話題項目の選択率が各グループにより異なっていたものは、主にA「生活環境によるもの」とB「コミュニケーションのあり方によるもの」の二つである。ここでは、「生活環境によるもの」のうち①日常生活の話題、②将来志望の話題、そして「コミュニケーションのあり方によるもの」のうち③プライベートの話題、④人間関係の話題という合計4つの話題に焦点をあて、それぞれの特徴について分析を行う。

A「生活環境によるもの」

① 日常生活の話題

【学校生活】における「ネットの使用」「パソコン」など、寮生活に密接な関係がある話題は中国語グループに見られたが、日本語グループに見られなかった。一方、【学校生活】における「ゼミ」「卒論」「留学」「ボランティア」などの項目は中国語グループに見られなかった。これは、調査を行った中国の大学では、学生はほぼ全員寮に住んでおり、寮生活が中国語グループの学生に大きな比重を占めていたことによる。学生寮のインターネットは教師の許可がなければ使えないという校則があったため、学生間に関心の焦点になっていた。その一方で、調査を行った日本の大学には留学やボランティアの組織があり、留学やボランティアの経験を持っていることが多い。これらのテーマについては、中国人学生より強い関心を持っていると考えられる。また、卒論の指導形式は中国の大学と違い、ゼミ形式であった。両グループの学生の文化背景に相違点があるところあり、関心を持っているところが異なるため、話題選択にも違う傾向が見られたと考えられる。

② 将来志望の話題

中国語グループでは、【進路】における「大学院入試」「将来の志望」「就職」の話題項目の選択率が日本語グループより多い。特に「大学院入試」の選択率が4倍以上になった。筆者の経験でも、中国人学生と話す場合、中国にいても日本にいても、「将来は何をやりますか」という話題が出現することが多い。その一方で、日本人学生と話す時、将来について話が盛り上がったことがない。これは社会背景に関係があると考えられる。中国の大学では、大学院に進学する学生が毎年増えている。江蘇省教育局の統計によると、江蘇省の大学院入試を受ける学生は毎年10万人ずつ増えており、2012年は165.6万になり、2011年より6.9%増加している。こうした背景により、大学生の会話に大学院入試に関わる話題がより多く出現したと考えられる。また、卒業生が毎年増えており、就職がますます難しくなることがあるため、「就職」は大学生が関心を持っている話題の一つになっていると考えられる。

以上の分析から、中日両グループの学生の生活環境により、関心を持っている部分に相違が見られた。三牧(1999)が指摘しているように、文化を共有する集団には一般的あるいは典型的な知識の集合であるスキーマが共有されているが、話題選択に関しても「初対面会話話題選択スキーマ」が存在している。中国語グループと日本語グループの学生の文化背景が違うことにより、出現する話題項目の相違が生ずると考えられる。

B「コミュニケーションのあり方によるもの」

③ プライベートの話題

【個人情報】の中で、「自我」という自分の内面の性格に関わる話題項目は選択率が低く、中国語グループには出現したが、日本語グループに出現しなかった。

会話例5は「自我」が話題として出現した例である。

会話例5 (中国語グループ)

1 CF0202 你看我跟你说话不羞涩，其实我很羞涩的，跟你讲。

あなたと話している時は社交的に見えるかもしれないけど、実は私はとても内気なんです。

2 CF0201 嗯，我也挺那个的。

うん、私もそうです。

3 CF0202 如果跟我熟了的话，玩起来会很疯的。

もし仲良くなれば、とてもオープンになれるよ。

4 CF0201 我也是，你没见过我们宿舍夜半飙歌。

私も、いつも寮で夜中に、ルームメイトと一緒に大声で歌っていたのよ。

会話例5では、中国語グループの学生が自分の内面的な性格に関する情報を開示している。日本語グループでは、このような自分のプライベート領域に深く踏み込んで開示

した例は見られなかった。

また、中国語グループには「給料」「奨学金」のような相手のプライベートな領域に踏み込む話題が出現したが、日本語グループには見られなかった。このように、中国語グループは自分の内面だけではなく、相手の内面にも踏み込むことがある。日本人は逆に自分の内面にも相手の内面にもあまり踏み込まない傾向が見られた。日本語グループの会話では、双方が初対面という疎的な場面であることに対する配慮が話題選択の傾向に影響したと考えられる。

④ 人間関係の話題

【他者】における各話題項目を見ると、中国語グループのほうが日本語グループより選択率が高い。これは、初対面でも互いに相手のこと、および相手に関係する事柄に関心を示すことを重視するという中国語社会の対人関係のあり方が、話題選択にも反映されたものと考えられる。

また、中国語グループには「連絡手段」「誘い」「約束」「依頼」など最終的に両話者が特定の課題を達成することを目的とする発話が見られた。一方、日本語グループに「何でこの実験に来ますか？」のような実験に関するその場の話が会話の最初に出現してから、話題が展開された例がある。その点から、中国人学生は初対面の場合でも、より積極的に相手との距離を縮める。日本人学生はその場の話を通じて、相手との関係の接点を作ると考えられる。

会話例6は「連絡手段」が話題として出現した例である。（「#####は5CM0602の電話番号」）。

会話例6（中国語グループ）

1CM0601 我一般不打篮球，就玩玩乒乓球羽毛球。

僕は普通バスケをしなくて、卓球とバトミントンをやっている。

2CM0602 我乒乓球羽毛球都不怎么样，篮球还行。

僕は卓球とバトミントンはそんなに上手じゃなくて、バスケはまだいい。

3CM0601 哦

あ、そう。

4CM0601 (3S) 你的电话号码是什么？

(3S) 電話番号を教えてください？

5CM0602 等一下哦。#####

ちょっと待ってね。#####

6CM0601 #####?

#####?

7CM0602 嗯。

はい。

8CM0602 (1S) 你准备考研?

(1S) 大学院に行く?

会話例6では、「スポーツ」の話題が終わった後、3秒の沈黙があった。その後、4番から7番まで「連絡手段」の話題が出現した。連絡手段を交換した後、また「大学院入試」という新しい話題が展開された。中国人学生が積極的に人間関係を作ることが覗えた。

会話例7は「実験に来る経緯」が話題として出現した例である。

会話例7 (日本語グループ)

1JM0602 こんにちは

2JM0601 はじめまして、ええと、〇〇です。〇〇と申します

3JM0602 あ、●●と申します。麗澤の?

4JM0601 そうです

5JM0602 麗澤4年、日本語学で、

6JM0601 あ、そうなんですか。僕は修士一年で

7JM0602 あー

8JM0601 日本語専攻ですか?

9JM0602 そうですね。日本語専攻です。はい

10JM0601 え、(筆者の名前)とはどうやって知り合ったんですか?

11JM0602 ええと、つい最近ま、ちょっと論文のあの情報をちょっと得るために

12JM0601 はい

13JM0602 中国語の、前に中国語を教わった先生がいて

14JM0601 はい

15JM0602 王先生という方なんですけど、

16JM0601 はい

17JM0602 そのかたにちょっと伺いたいところがなんか、じゃいいところ紹介してあげることで、大学院へ行って、知り合ったということ

18JM0601 あ、なるほど。ちょっと研究のほう

19JM0602 そうですね、それはちょっとお願いしますということ

20JM0601 あ、まーまー、20でいいお話をお願いします HHH

21JM0602 (HHH) あーそうですね

22JM0601 じゃ、4年生だと、

23JM0602 はい

24JM0601 この時期だと、もう卒論とかはかなり進んでる感じですか?

会話例7では、名前、学年、専攻などの基本的な個人情報が開示された後、「何でここに来たのか」という会話実験に関する発話が見られた。JM0601は筆者の友人であり、10番から20番まで「え、(筆者の名前)とはどうやって知り合ったんですか?」という話により接点が作られ、その後の「卒論」などの話題が続けられた。

以上の分析から、中国語母語話者が積極的に相手の個人的な事柄に踏み込んで話題を展開させるのに対し、日本語母語話者は相手の個人的な事柄に踏み込まないように配慮するという相違が見られた。

4.3 会話開始方式

中国語グループと日本語グループの会話開始状況は次のようにまとめることができる。

表5 会話開始状況

	中国語グループ	日本語グループ
①定型的な挨拶言葉	5 (26.3%)	17 (94.4%)
②非定型的な言葉	3 (15.8%)	0 (0%)
③自己紹介	3 (15.8%)	1 (5.6%)
④質問形式	8 (42.1%)	0 (0%)
合計	19 (100%)	18 (100%)

日本語グループの会話は一般的に「はじめまして、どうぞよろしく申し上げます」や、出会いの一般的なもの「おはよう (ございます)」「こんにちは」「こんばんは」などの定型的な挨拶言葉で始まり、自分の名前・学年・専攻を自ら開示し、会話を展開する。一方、中国語グループの会話は特別な形式がない。定型的な挨拶言葉は基本的に「你好」(おはようございます、こんにちは、こんばんは)である。また、63.1%のペアが非定型的な形式で会話を切り出している。定型的な挨拶のほかに、「我先自我介绍一下」(まず、自己紹介します)、「请问一下」(ちょっと聞きたいんですが)などの前置き表現で会話を始めるケースが見られた。また、挨拶なしで、直接質問の形式で会話を切り出したケースと、自分の情報を述べた後に相手の情報を聞くという2種類の例が見られた。そこから、相手の情報を質問で取り出すような形で、会話を展開していくという傾向が見られた。この傾向は、バーランド(1979)が「日本語母語話者がコミュニケーションの自発的な形よりは、規制された形を好む。会話が決まった形でやりとりされる礼儀的なもののほうが、人格と人格の出会いや親密さを伴う自発的なものより好まれる。個人間の対面で形式が多ければ多いほど、習慣的に定められた限度を超え自己を表す率は少なくなる」と述べていることに合致する。

次に、会話の開始段階の例を挙げる。(下線は会話の開始部、波線の下線は会話の展開部を表す。)

会話例 8 (日本語グループ) 挨拶言葉

- 1 JM1601 じゃ、よろしくお願ひします。 (定型的挨拶言葉)
- 2 JM1602 よろしくお願ひします。
- 3 JM1601 あの、大学院 2 年の○○と申します。 (展開部)
- 4 JM1602 僕も 2 年の●●と申します。
- 5 JM1601 ●●さん?
- 6 JM1602 はい。
- 7 JM1601 僕はあの飛び入学しているんですよ。
- 8 JM1602 あ、そうなんですか。

会話例 8 では、話者双方が「よろしくお願ひします」という定型的な挨拶をした後、自己紹介が自発的に行われている。その後、自分の情報が述べられ、話題が展開されている。

会話例 9 (中国語グループ) 挨拶言葉

- 1 CM1001 你好! (定型的挨拶言葉)
 こんにちは!
- 2 CM1002 你好!
 こんにちは!
- 3 CM1001 我是泰州的。你呢? (展開部)
 僕の出身は泰州です。あなたは?
- 4 CM1002 我是连云港的。
 僕は連雲港です。

会話例 9 では、日本語グループと似ており、「你好」(こんにちは)という定型的な挨拶言葉で会話を切り出した後、一人の話者が自分の出身地を開示し、会話が展開されている。

会話例 10 (中国語グループ) 自己紹介

- 1 CF1801 我先自我介绍一下。 (非定型的な言葉)
 まず自己紹介します。
- 2 CF1802 好
 はい。

3 CF1801 我叫○○。是日翻的。 (展開部)

私は○○です。日本語翻訳専攻です。

4 CF1802 我叫●●，我也是日翻的。我大三。

私は●●です。私も日本語翻訳専攻です。3年生です。

会話例 10 では、自己紹介で会話を切り出したケースである。これは日本語グループに似ているところがある。

会話例 11 (中国語グループ) 非定型的言葉

1 CM0401 没事，我们随便谈一谈嘛。 (非定型的な言葉)

ちょっとおしゃべりしましょうよ。

2 CM0402 好。

いいよ。

3 CM0401 就是你大几的呀？ (展開部)

あれ、今何年生ですか？

4 CM0402 我大二的。

僕は2年生です。

5 CM0401 大二啊？

2年生？

6 CM0402 嗯，对呀。数学学院统计专业。你呢？

そうです。数学学部統計専攻です。あなたは？

(以下省略)

会話例 11 は定型的な挨拶がなく、相手を会話に誘うという形で、会話を切り出している。その後、相手の個人情報をもとに質問する形式で、会話が展開されている。

会話例 12 (中国語グループ) 質問形式

1 CM0601 你是什么专业的？ (質問形式)

あなたの専攻はなんですか？

2 CM0602 我是那个物理电子学院的。 (展開部)

私は電子物理学部です。

3 CM0601 也是物电？

あなたも電子物理学部ですか？

4 CM0602 哦，你也是物电的？

あ、あなたも電子物理学部ですか？

会話例 12 では、一人の話者がもう一人の話者の個人情報を知るという直接質問の形で会話を切り出している。

以上の例から、中国語グループの会話開始方式はより多様で、相手の情報を知るといった質問形式で会話を始めることが分かる。

5. まとめ

本稿で述べたことは次のようにまとめることができる。

①話題数について：日本語グループでは大話題数は少ないが、一つの大話題に含まれる小話題が多い。一方、中国語グループでは開示された大話題数は多いが、一つの大話題に含まれる小話題が少ない。

②話題内容について：両グループともに「名前」「学年」「学科」「専攻」の選択率が高かった。【個人情報】の開示により、心的距離を接近させる傾向が見られた。また、両グループの母語話者がそれぞれ関心を持っていることがらやのプライベートな話題の範囲が異なることにより、話題選択に違いが見られた。中国語グループはよりプライベートな話題が開示され、人を中心とした情報開示によって親近感を与え、より積極的に人間関係を作る。日本語グループはお互いの領域に配慮しながら会話を進め、二人の接点を作ってから会話を展開する。

③会話の開始方法について：日本語グループに「こんにちは」「はじめまして」などの定型的表現で会話を切り出すのが最も普通である。一方、中国語グループは一人の話者がもう一人の話者の個人情報を知るといった直接質問の形で会話を切り出すことが多い。

本稿では、中日母語話者の初対面会話で、どのような話題について言及したかを考察してきたが、話題と話題の間の内容的なつながりについてはまだ触れていない。また、中国語母語話者と日本語母語話者は文化背景が違うため、同じ話題で話す内容が同じかどうかに関する分析も必要がある。

付記

本稿は唐瑩（2013）の第4章の一部を中心にまとめたものである。

参考文献

- 蔡 諒福 (2011) 「社会人初対面会話における話題選択に関する一考察—日台中のデータをもとに—」『大阪大学言語文化学』20、103—115、大阪大学言語文化学会
- 謝 韞 (2005) 「日本人女子大学生同士と中国人女子大学生同士の初対面会話」『日本中国語学会第55回全国大会 予稿集』296—300
- 張 瑜珊 (2006) 「台日女子大生による初対面会話の対照分析：初対面会話フレームの提案を目指して」『人間文化論言』9、223—233、お茶の水女子大学
- (2007) 「初対面会話における対人関係構築プロセスの研究概観：会話データからの研究を中心に」『言語文化と日本語教育』増刊特集号、94—118、日本語学文化研究会
- 唐 瑩 (2013) 「初対面会話における中日母語話者の自己開示の研究—大学生同士の会話を中心に—」麗澤大学大学院言語教育研究科日本語教育学専攻修士論文
- 西田 司 (1998) 『異文化の人間関係』多賀出版
- 三牧陽子 (1999) 「初対面会話における話題選択スキーマとストラテジー—大学生会話の分析—」『日本語教育』103、49—58、日本語教育学会
- (2013) 『ポライトネスの談話分析—初対面コミュニケーションの姿としくみ—』くろしお出版
- 村上恵・熊取谷哲夫 (1995) 「談話トピックの結束性と展開構造」『表現研究』62、101—111、表現学会
- 山本 綾 (2003) 「話題転換についての一考察—アメリカと日本のテレビのトーク番組を資料として—」『えちゅーど』33、57—81、お茶の水女子大学大学院英文学会
- D.C.バーンランド (1979) 『日本人の表現構造：公的自己と私的自己・アメリカ人との比較』(西山千・佐野雅子訳)、サイマル出版社